

高等学校第1学年
国語「言語文化」

**クラウドのワークシートを活用しながら短歌を創作し、
グループで短歌の表現を洗練していく。**

■単元の目標

- (1) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)ウ
- (2) 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力〕A(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

■単元の概要

短歌を創作する楽しさを知り、自分の体験や思いが効果的に伝わる短歌を創作し、クラス全体で短歌の批評会を行う。

■単元の指導計画（5時間）

第1次（1時間）

様々な短歌を鑑賞し自由に解釈をすることで短歌に親しみ、歌で用いられる語句やその使われ方について考える。

第2次（2時間）

短歌で使えそうな五音と七音の言葉を集め、それらを自由に組み合わせてグループで短歌を創作し、創作した短歌の言葉の組合せや、解釈について考える。

第3次（2時間）

季節の風物などの身近なテーマで、各自で短歌を創作し、クラスで短歌の批評会を行う。全体の振り返りを行う。

■主な時間の概要

様々な作者の短歌を自由に鑑賞して、短歌への興味関心を深める。和歌や短歌で詠まれる語句の文化的背景による意味の変化や、短歌を意味深いものにする語句について考える。

五音と七音の言葉の色々な組合せで作った短歌の解釈を考えることで、組合せによって言葉の意味が変化し、創作する短歌のイメージを大きく変えることを実感する。短歌創作における言葉選びの大切さ、言葉の組合せの工夫の重要性を学ぶ。

1次、2次で学習したことを踏まえて、各自で短歌を創作する。テーマはクラスごとに決める。端末とクラウドを活用して、クラスで批評会を行う。各生徒が創作した短歌について、良いと思ったものを各自3首選び、コメントを付けて投票する。結果は時間内に公表し、批評コメント等を全体で共有する。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2次）

【学習活動の場面】（第2次）

短歌で使えるような五音と七音の言葉を集め、Googleスプレッドシートに一覧を作成する。グループで、それらを自由に組み合わせて創作した短歌について、言葉を入れ替えると意味がどのように変化するかなどを話し合い、短歌創作における言葉選びの大切さ、言葉の組合せの工夫の重要さを考える。

【生徒の「深い学び」の姿】

Aグループは最初に、
「昼休み 並んで歩く 好きな子と キャラメルくれた 貴方が好きだ」
という短歌を創作した。
グループの話し合いでは、**「好きな子」と「好きだ」の意味が重複しているのではないか。」という意見が出て、表現の見直しを進めた。**

「好きな子と」の五音を、「君の隣」「名前呼ぶ」「並ぶ影」「春の午後」等の多くの言葉と自由に入れ替えながら、短歌の意味の変化や印象の違いについて意見交換をした。これにより、**短歌の中で使われる言葉は、他の言葉との組合せで、伝える意味や情景が変わることに気づいた。**最終的に

「昼休み 並んで歩く **あと5分** キャラメルくれた 貴方が好きだ」

という短歌にまとまった。この短歌では、「あと5分」という言葉の時間の限定が、日常の光景を特別な体験として演出し、「好きだ」という感情のときめきを鮮明に描き出している。**Bは、言葉の選び方一つで伝わる情景が変わることを実感し、短歌創作における繊細な言葉の使い方の重要性を学んだ。**また、他者との対話による表現の推敲が、グループ全体の深い学びへとつながった。

（Aグループの生徒Bの振り返りの一部）

短歌は31音で思いを伝えるため、言葉を厳選する必要がある。「5分」という具体的な時間が加わることで情景がより鮮明になり、作者にとっての特別な瞬間が読み手にも意味をもって伝わるように感じた。それは、**「5分」という言葉が「好きだ」という言葉と合わさることで、「儚さ」や「貴重さ」という意味を帯びる言葉に成長した**からではないかと思った。**言葉の選び方や組み合わせによって、多様な表現が生まれることに気づいた。**

【当該指導での「深い学びの姿」】

Bは、短歌で使う言葉をグループで検討する中で、**言葉の組合せによって、一つ一つの言葉の意味が変化し、短歌の深みが増したり、印象が変わったりすることに気づいた。**これは、単なる語彙の選択ではなく、言葉のニュアンスや関係性に目を向けた体験的な気づきであり、実感を伴う学びである。ワークシートで五音・七音の言葉を一覧化・共有したことで、言葉の組み合わせの比較がしやすくなり、短歌の創作や修正が円滑に進んだ。他者の視点に触れながら試行錯誤を重ねる中で、表現への意識が高まり、端末の活用が深い学びを支える手段となった。この気づきや工夫は、**次時の短歌創作に生かされる学びである。**

【活用したソフトや機能】 Googleスプレッドシート

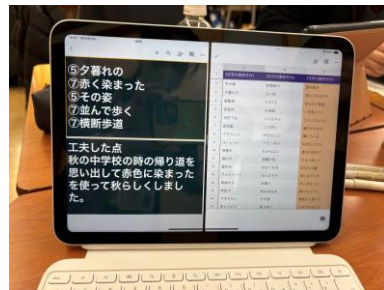
■指導上の工夫とICTの利活用

①他グループの創作の途中経過等を、随時共有する。

* **クラウドを活用して創作することで、他のグループの状況を把握し、創作の参考にすることができる。**

②**クラウド内のワークシートで、様々な言葉の組合せを試みる。**

* 本時のグループ活動では、言葉の組合せによって、短歌がどのように変化するかを考えることが重要である。クラウドで共同編集できるワークシートに多くの言葉を置き、各自が短歌のパーツを自由に入れ替え、様々な組合せのイメージをつかむことができる環境を整えた。クラウド内のワークシートでは、全ての文字のフォントが統一されているため、言葉と表現が作りだす世界観のみに集中して考えることができる。



学習指導要領や解説との関連

高等学校学習指導要領 第2章 第1節 国語

第2款 各科目 第2 言語文化 2 内容

〔知識及び技能〕（1）

ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し，それらの文化的背景について理解を深め，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。

〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと（1）

イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう，文章の種類，構成，展開や，文体，描写，語句などの表現の仕方を工夫すること。

出典：高等学校学習指導要領P36

効果的に伝わるようとは，読み手を想定し，**誰に何のためにどのようなことを伝えようとするのかといった観点に基づいて，我が国の言語文化に根差したより適切な表現を工夫すること**を指している。

例えば，詩歌を創作する際には，体言止め，対句，擬人化，倒置法，押韻といった様々な技法によって，余韻や余情などを感じさせることができる。また，**五感に訴える語彙を選択することによって，読み手に鮮やかな情景を想像させることができる。こうした表現の効果を意識しながら，自分の体験や思いを伝えるための言葉の選択と組立てなどを工夫することが望まれる。**

出典：高等学校指導要領（平成30年告示）解説国語編P124